

2022年12月12日

住友生命保険相互会社

国内太陽光発電事業への投資について ～コーポレート PPA を活用した国内初のプロジェクトボンド案件～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、合同会社 CN 太陽光がプロジェクト運営会社となる国内太陽光発電事業への投資（39 億円）を決定しました。

本件は、日本国内の幅広い地域に所在する、700 件を超える多数の低圧太陽光発電所^{※1}に対する投資であり、民間企業が長期（30 年）にわたり固定価格で発電量を買取る契約（コーポレート PPA）となっているため、安定した売電収入が見込まれます。また、各発電所の発電量は小さいものの、多数の発電所を対象とするため、日射量の変動や災害等のリスクに対して高い分散効果が期待できます。なお、本件は、プロジェクトボンド^{※2}という形態での資金調達となりますが、低圧太陽光発電所を投資対象とし、かつコーポレート PPA を活用したプロジェクトボンドは国内初^{※3}の案件となります。



© クリーンエネルギーコネクト

※1 定格出力が 50kW 未満の太陽光発電を指します。

※2 プロジェクトの資金を証券化し投資家から調達する手法を指します。

※3 本邦において信用格付け付与された公表案件としては初案件となります。

住友生命は、資産運用を通じて環境・社会へのポジティブなインパクトの創出に取り組んでおり、中長期の安定的な運用収益確保に加え、脱炭素および持続可能な社会の実現への貢献を目指しています。本ファンドの投資対象は日本国内の太陽光発電所であり、日本の脱炭素社会への移行を促進するとともに、2030 年および 2050 年の GHG（温室効果ガス）排出量削減目標達成に寄与する投資であると考えています。

【本件概要】

発行体	合同会社 CN 太陽光
アレンジャー	ゴールドマン・サックス証券株式会社
組成金額	87.6 億円（うち住友生命 39 億円）
資金使途	発電所開発資金ほか

【本件を通じて貢献すると想定される主な SDGs 項目】

